

私と出会ってくれてありがとう

「最期まで、一人の人間として扱ってくださってありがとうございました。」亡くなった A さんの弟さんが最後に伝えた言葉だ。A さんは、慢性腎不全と脳梗塞で、動くことも、話すこともできない状態だった。身寄りには弟さんだけで毎日面会に来ていた。意識が低下している A さんを見て弟さんは「A ちゃん、もう死ぬのか、もう楽になりたいか、生きたいか？もう無理しなくてもいいんだよ」と話しかけ、私に対しても「もう、ずっと喋れない、食べられない、痛くても寒くても言えないからね。このまま苦しむより逝ってしまうほうが楽なんじゃないかと思います。」と話していた。A さんと家族に、私は何をしてあげられるのだろうかと思い悩んだ。そして、私が A さんだったら、一人でいると孤独を感じると思った。それでも、傍に誰かいて、話しかけてくれたら嬉しいと思った。

床頭台には、まだ意識がはっきりしていた時に使っていた化粧水やハンドクリームが置いてあった。髪をとかし、顔を拭き、朝はカーテンを開けて光を取り込み、「今日は、10月31日、お茶の日ですよ。」と声を掛けた。温泉好きだったと聞き、温かいお湯で手浴を行った。手浴をしていると、A さんの表情が柔らかくなったように感じた。もっと、その表情がみたくて、毎日実施した。この穏やかな顔を弟さんが見たら、心が少しでも楽になるのではないかと思い、面会に合わせ手浴を行った。弟さんは手浴中の A さんを見て「A ちゃん、いいね、気持ちいいんだね」と声を掛け、私にも「気持ちよさそうな顔しますよね。」と嬉しそうに話してくれた。また、弟さんから花が大好きだったと聞いた。大好きな花を傍に飾り、季節を感じてほしいと思いコスモスの押し花を作った。休み明け、喜んでもらえるかなと思って病室へ行くと A さんの姿はなかった。亡くなっていた。私は、その死を受け入れられず、衝撃と悲しさでいっぱいだった。もう逢えない、もっと出来ることあったよね、もっともっとと考えれば考えるほど、その分悲しくなった。自分の無力さを感じて涙があふれた。師長さんが、「自分がしてきたことを認めなさい。家族の言葉は A さんからあなたへの言葉だと思うよ。」と言ってくれた。本当にそうか分からないけど、私はこの言葉に救われた。最期に A さんに挨拶ができなかったことが悔やまれるが、この実習で A さんと出逢えたことで、無力な私でもその人が求めるものは何か、その日にできることを精いっぱい考えて寄り添うことはできたのではないかと思えるようになった。A さんは生前、献体の意思を残していた。そんな姿から、人はこうして生きて、死んでいくんだよって教えてくれたような気がした。別れの日はいつ来るかわからない。それから私は A さんに伝えられなかった言葉を、必ず患者さんたちに伝えるようにしている。

「私と出会ってくれてありがとう」